

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.247

■ 第7回会員企業アンケート調査結果報告会（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、毎年度、会員企業の皆様にご協力いただき、会員企業の皆様の次世代自動車に対する対応状況等を把握するとともに、当センターで実施する事業の参考とすることを目的とした「会員企業アンケート調査」を実施しています。

今回は、今年2月に実施しました第7回アンケート調査の結果（対象会員企業数 525 社、回答会員企業数 221 社、回答率 42.1%）について、回答をいただきました会員企業の皆様の次世代自動車に対する意識や次世代自動車への取組状況等を認識していただくとともに、今後の次世代自動車への取り組みのご参考としていただくため、当センターの望月センター長による「会員企業アンケート調査結果報告会」をWeb形式により開催しました。

- 日 時：令和6年7月4日（木）13時30分～14時40分
- 場 所：Web形式
- 参加者：40社/44名

2024年度 会員企業アンケート調査結果報告会

第7回 会員企業アンケート調査結果報告  
～ 次世代自動車への取り組み状況 ～

2024年 7月 4日

次世代自動車センター浜松 センター長 望月 英二



79 第7回会員企業アンケート調査結果（CASE）に対する取り組み状況

(2-1) 次世代自動車に対する取り組み状況  
「C:つながる化」「A:自動運転化」「S:シェアリング化」「E:電動化」

区分	先行開発企業					計
	何もしない	調査中	開発中	量産中	分らない/その他	
C	146	4.1	12	8	14	221
	66.1%	18.6%	5.4%	3.6%	6.3%	100%
A	126	5.7	15	7	16	221
	57.0%	25.8%	6.8%	3.2%	7.2%	100%
S	164	3.4	5	1	17	221
	74.2%	15.4%	2.3%	0.4%	7.7%	100%
E	34	7.3	64	43	7	221
	15.4%	33.0%	29.0%	19.4%	3.2%	100%

先行開発企業が多い分野は「E:電動化」であり、アンケート調査に回答した会員企業の48.4%(107社/221社)の企業が「E:電動化」の分野で先行開発企業である。

88 第7回会員企業アンケート調査結果（2024年度の事業内容）

(3-1) 29項目の開催支援事業の人気ランキング投票結果

ランキング「ベスト5」	ランキング「ワースト5」
(1) 次世代自動車フォーラム 固有技術探索活動	(1) ものづくり中小企業向け 固有技術探索活動
(2) 技術動向講演会(CASE) 固有技術探索活動	(2) 関係企業向け 固有技術探索活動
(3) 技術動向講演会 (カーボンニュートラル対応) ワークショップ	(3) 現場改善のための ワークショップ
(4) 次世代自動車関連の 製造現場見学会	(4) 工学系学生の インターンシップ
(5) 部品ベンチマーク活動	(5) 自動車工学基礎講座 (衝突安全の基礎)

・人気のある支援事業は、情報提供の事業という傾向は昨年度と同様である。車両分解活動や部品ベンチマーク活動の人気は、相変わらず高くなっている。  
・人気のない支援事業は、昨年度と同様、「固有技術探索基礎講座」、「現場改善ワークショップ」、「インターンシップ」であり、「参加したい」との回答が極端に少ない事業であった。

89 第7回会員企業アンケート調査結果（2024年度の事業内容）

(3-2) 車両分解活動及び部品ベンチマーク活動の分解調査対象部品

【分解調査したい車両あるいは部品の希望を調査。】複数回答あり

分解調査対象部品	希望							件数
	組立・組立	金型	プレス加工	溶接	ゴム成形	電気・電子	その他	
電動パワートレイン	1	1	4	3	4	1	14	
モーター車体	1	1	4	2	4	2	14	
高圧シラント(ケース)	1	5	5	1		1	13	
ケース	3	1	1				5	
パワートレイン	4		4		2		10	
インバーター	5	3	2	1			11	
駆動システム部品	3	3	6	4	2	4	22	
センサー部品	1	1	6	2	1	3	8	
制御部品	1	1	1	1	1	1	3	
駆動系部品			2	2		1	3	
ステアリング部品	2		2				4	
その他				2		1	3	

・「電動パワートレイン」の構成部品である「モーターシャフト」「モーター及びインバーターのケース」「バッテリー(ケースパイプ)」などの具体的な部品についての要望が増えた。  
・「熱マネジメント部品」に対する要望が特によく。

91 第7回会員企業アンケート調査結果（支援事業の定量効果指標）

(5-1) 開発の支援事業における定量効果指標

定量効果指標の考え方

『会員企業にとって、次世代自動車に対する取り組み状況において、最も高いハードルは、「調査中」から「開発中」「量産中」への移行であり、支援事業の成果は、そのハードルを越えた企業数で表すことができる。』

会員企業アンケート調査結果に基づく定量効果指標として、

- 入会後これまでに、先行開発企業となった企業数 193社（161社）
- 今回の調査で、増加した先行開発企業の企業数 34社（34社）

尚、先行開発企業：「開発中」・「量産中」と回答した会員企業のこと。

### 【参加者の声】

- ・アンケート内容や他社の状況などの活動内容を知ることができた。他の会員企業の活動も知ることができ、参考になった。
- ・電動化に対応している企業が経時的に知ることができ、参考になった。電動化への影響度の割合が、あまり変化していないのは意外だった。
- ・次世代自動車センターが、多くの企業で活用されていることが確認できた。
- ・他社の CASE による影響について知ることができ参考になった。多くの企業が電動化に対する関心が高く、良くも悪くも影響が大きいことがわかった。
- ・現段階での他社の取り組み度合いが分かった。当社も次世代自動車についての取り組みに真摯に取り組まなければならないと痛感した。
- ・電動化に対する取り組み状況の変化について、大きな変化がないということが意外に感じた。ただ、開発中や量産中については前回に比べ増加傾向にあったため、電動化という目標に向けて動き始めることができているのはよいことだと感じた。
- ・他企業の動向や次世代自動車センターの動きについて、情報を入手できたことが参考になった。
- ・会員企業が、どのような領域に関心を持ってセンターに入会したのかが、わかりやすかった。
- ・会員企業も増え、どの会社も最新の情報収集に注力していることがわかった。
- ・昨年度の事業実績の説明で他の会員企業がどのような活動に興味があり、参加されているかが明確になり、参考になった。
- ・年々参加企業が増加傾向で、次世代自動車に携わる企業が増えていることがわかった。次世代自動車センターの活動内容に魅力があるためとも思った。
- ・各種セミナーやベンチマーク活動など、参考にさせていただいている。「事業に一度も参加しない会員企業が 142 社」と言うのは驚きだった。